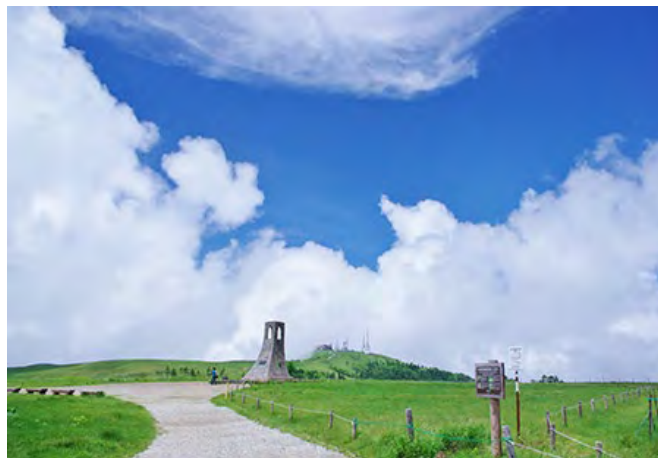


～プロジェクト & コラボレーション演習～  
長和町 × 女子美

モーと女の子のスタンプ & 絵本セット

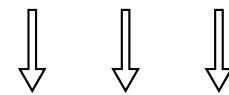
## 長和町の特徴ってなあに？

自然豊かで牧場に行ったり、綺麗な空が見れる。



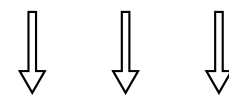
もっと長和町をアピールしたい！

もっとアピールしたい！けど…、  
問題点はある・・・？



問題点：長和町の人口は減少しつつ、バスの利用頻度が少ない。

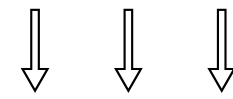
じゃあどうする？



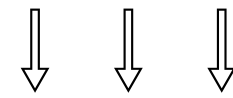
課題：バス停をもっと利用してもらうにはどうしたらいいか。

自分の特技は、絵…創作文…

絵 × 文章



絵本が作れそう！



バス停でスタンプラリーをしたい！

企画化：絵本とスタンプラリーを企画する。



誰に向けて：主に地元の人、観光客にむけて。  
何のために行うのか：長和町により関心を持ってもらう為。  
バスの利用者を増やす為。

どのように行うのか：絵本に長和町の特産物を盛り込み、紹介する。  
スタンプラリーでバス巡りみたいな事ができる。

どこで行うのか：屋根のあるバス停に絵本 & スタンプラリーを設置する。

制作方法：絵本という形にする。アートに起こす。

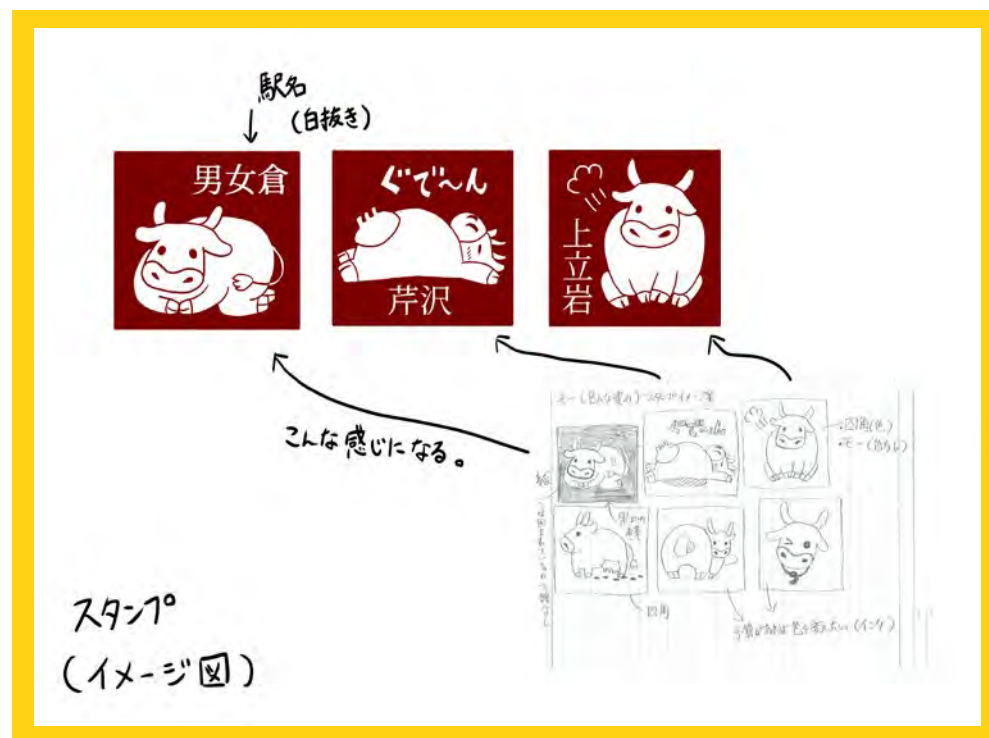
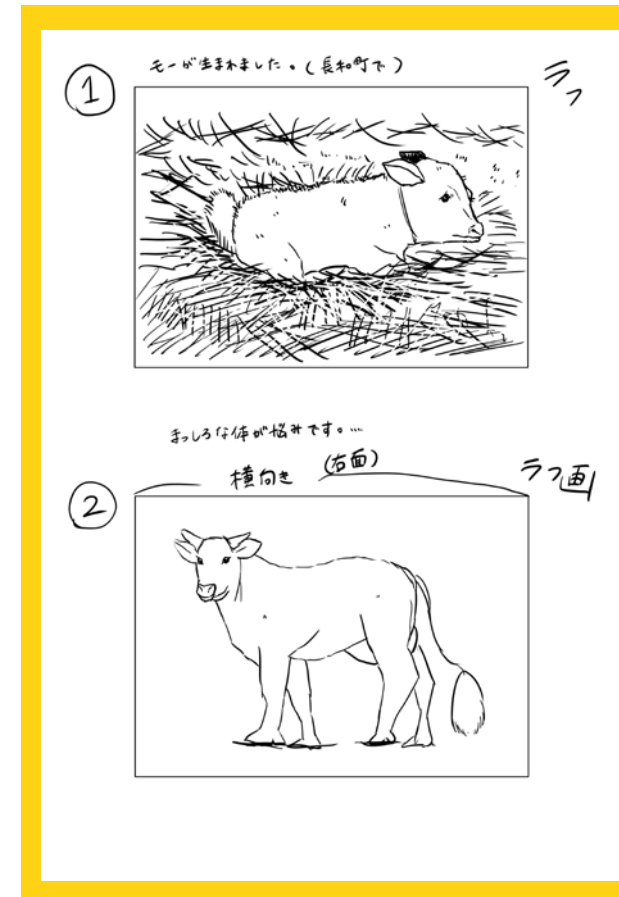
どんな良いことがあるのか：絵本は子供でも大人でも読める。  
バスの利用が増える。

どんな気持ちになる？ →ワクワク、ドキドキ、面白かった～！  
長和町って楽しそう！

# ラフ絵

## スタンプラフ案

## 絵本ラフ案



- ・ラフ案をルーズリーフとパソコンを使って考えました。
- ・絵本のキャラクターをそのままスタンプにも採用しました。
- ・可愛らしさを重視し、丸みの帯びたデザインにしました。



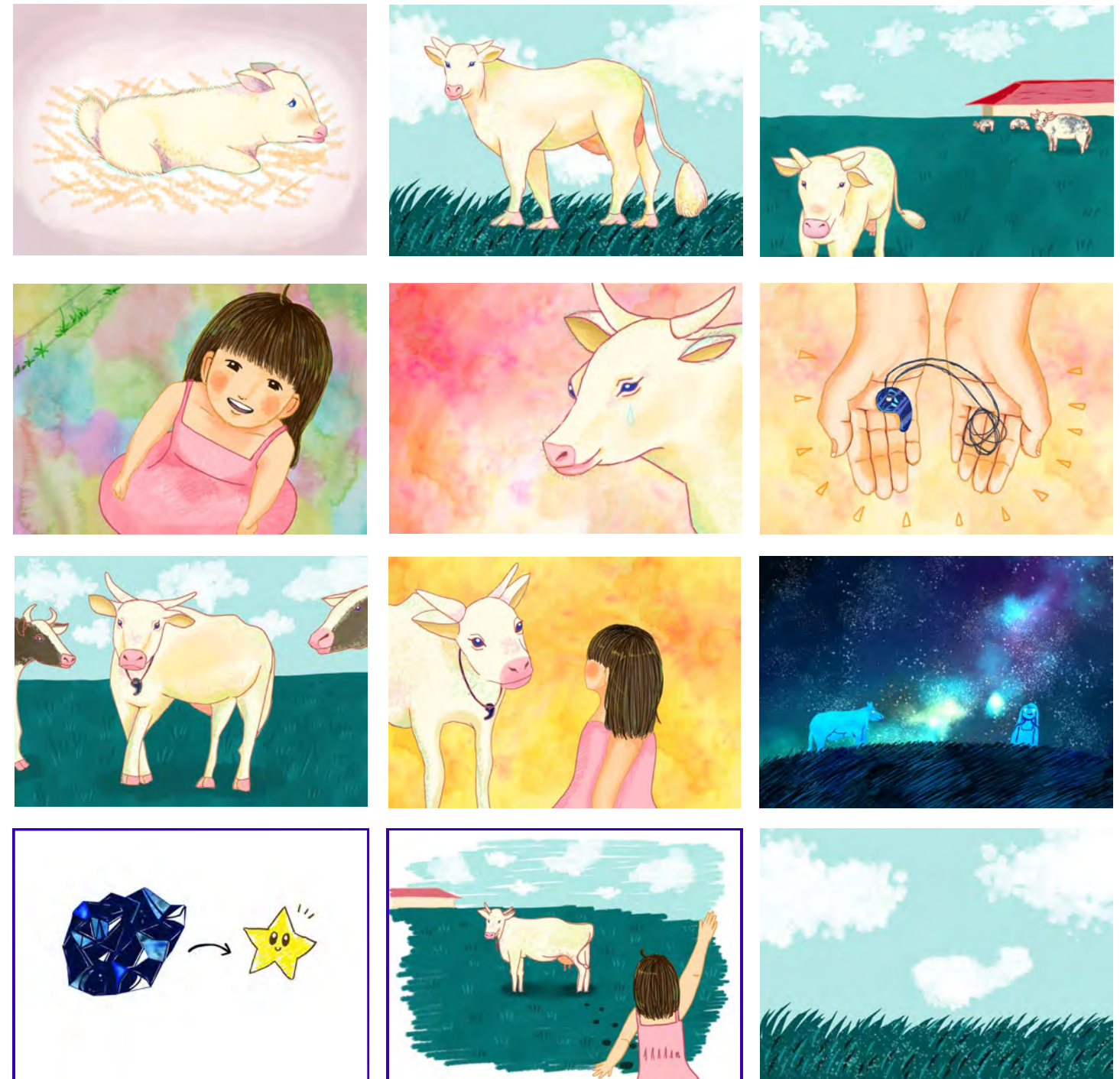
# 作品



## 牛のモーとおんなのこ

ぶん・え あつみかな

- 全部で11ページの絵本にまとめました。
- 長和町をうまくアピールする為に、長和町の特産物を作品の中にいくつか挙げました。
- 本来は文章が左、絵が右にあり、見開き仕様になっています。
- フィクションなので、少しファンタジーな要素を含みます。
- 大人も子供も読みやすいように、文字は大きくしてあります。



▲作中の絵



# 製本





▼A4サイズの台紙



▼スタンプを集めた後のイメージ図

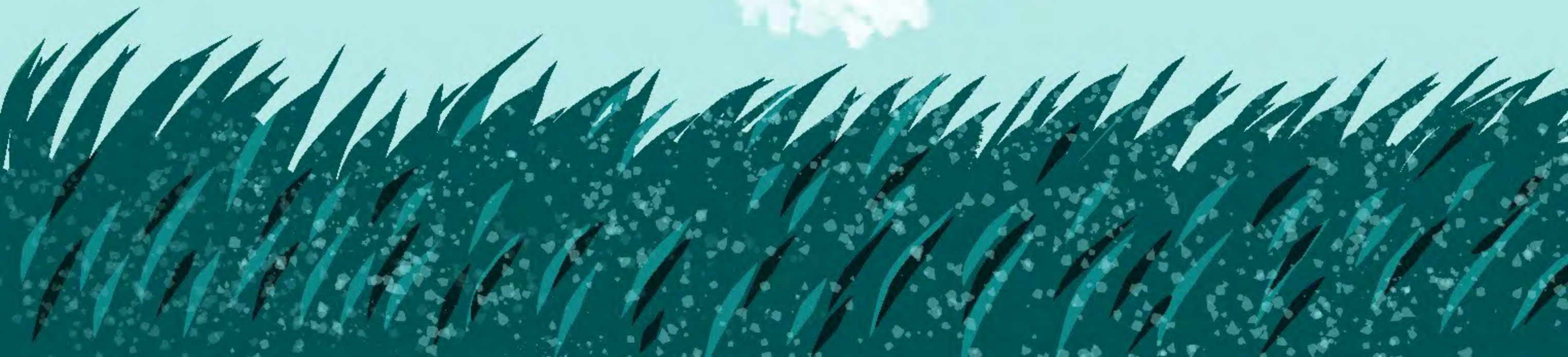


誰でも気軽にスタンプラリーに参加できる！

A4サイズの台紙を自宅でプリントしよう！  
自宅で用意ができなかった場合、役場でもらえるよ！

- ・台紙のデザインには、『牛のモーとおんなのこ』の絵本に出てくるモーとおんなのこのイラストがデザインされています。
- ・全部で6つもあるスタンプには、モーの愛らしい色んな姿と、カラフルな色合いでスタンプできます。
- ・屋根のあるバス停でスタンプをゲットできます。

牛のモーとおんなのこ





# 牛のモーとおんなのこ



あるところにいっとうのうしがいました。

なまえはモー

モーはながわまちのぼくじょうでうまれました。





モーにはなやみがありました。  
それはまっしろなからだです。





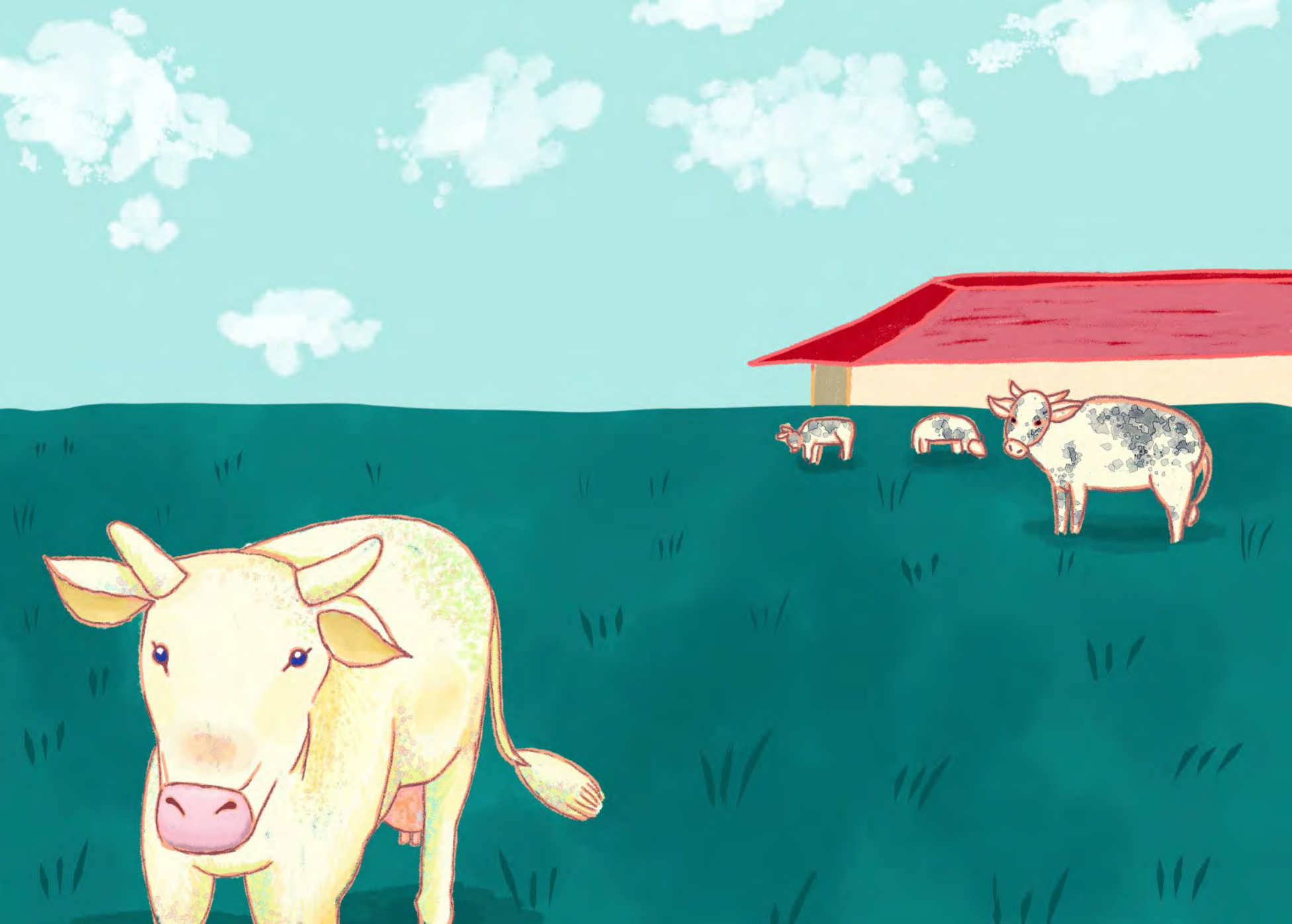
『へんなのー』

モーはなかまとなじめませんでした。  
もようがないからだをわらわれるのです。

『どうしてわたしは…』

モーはじぶんがきらいでした。





むれをはなれ、しばらくして  
モーはながわまちのげんきなおんなのことであいました。

あたりにはながわまちのしぜんがいちめんにあふれていました。  
ゆきのようなモーのからだがいちばんめだっています。

おんなのこは おおきなこえでいいました。

『うしさん、すごくきれいだな』





モーはおどろきました。  
おんなのこはモーのことを  
きれいだというのです。

モーはうれしいきもちでいっぱいになりました  
『ありがとう、ありがとう』  
モーはおんなのこにおれいをいいました。

おんなのこはまっしろなモーをみて、こころがウキウキしました。





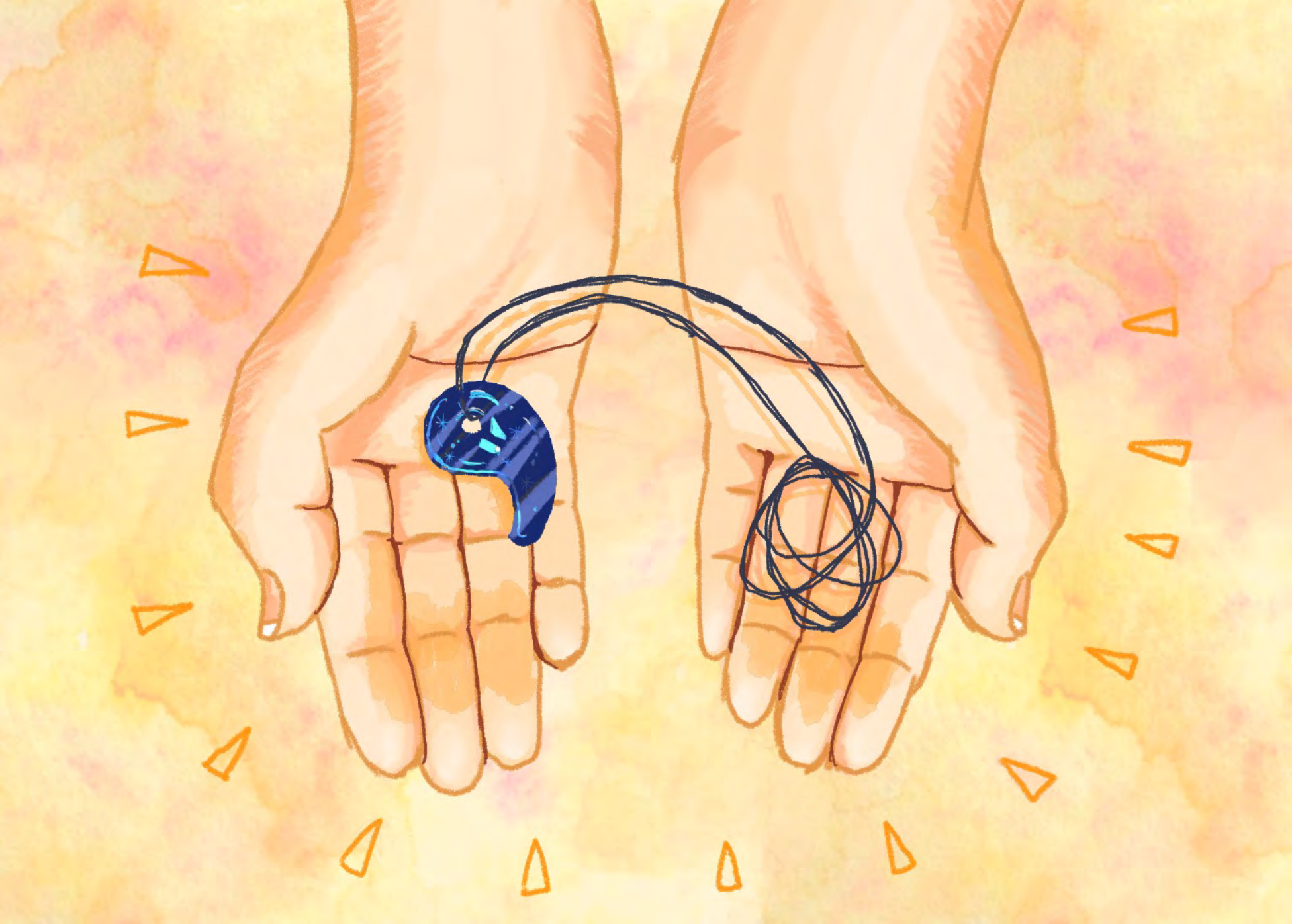


『きょう、すてきないしをふたつもらったの。  
モーに にあうとおもうな。だから、ひとつあげるね。』

おんなのこがたいせつになぎっていたきれいないしでした。

それは、こくようせきといういしでできたかざりでした。  
モーはくびにかざりました。

こくようせきには ふしぎなパワーがあるといわれています。  
かつて、ひとびとのうしろむきなきもちをかえて  
きぼうをよびさますといわれていたのです。

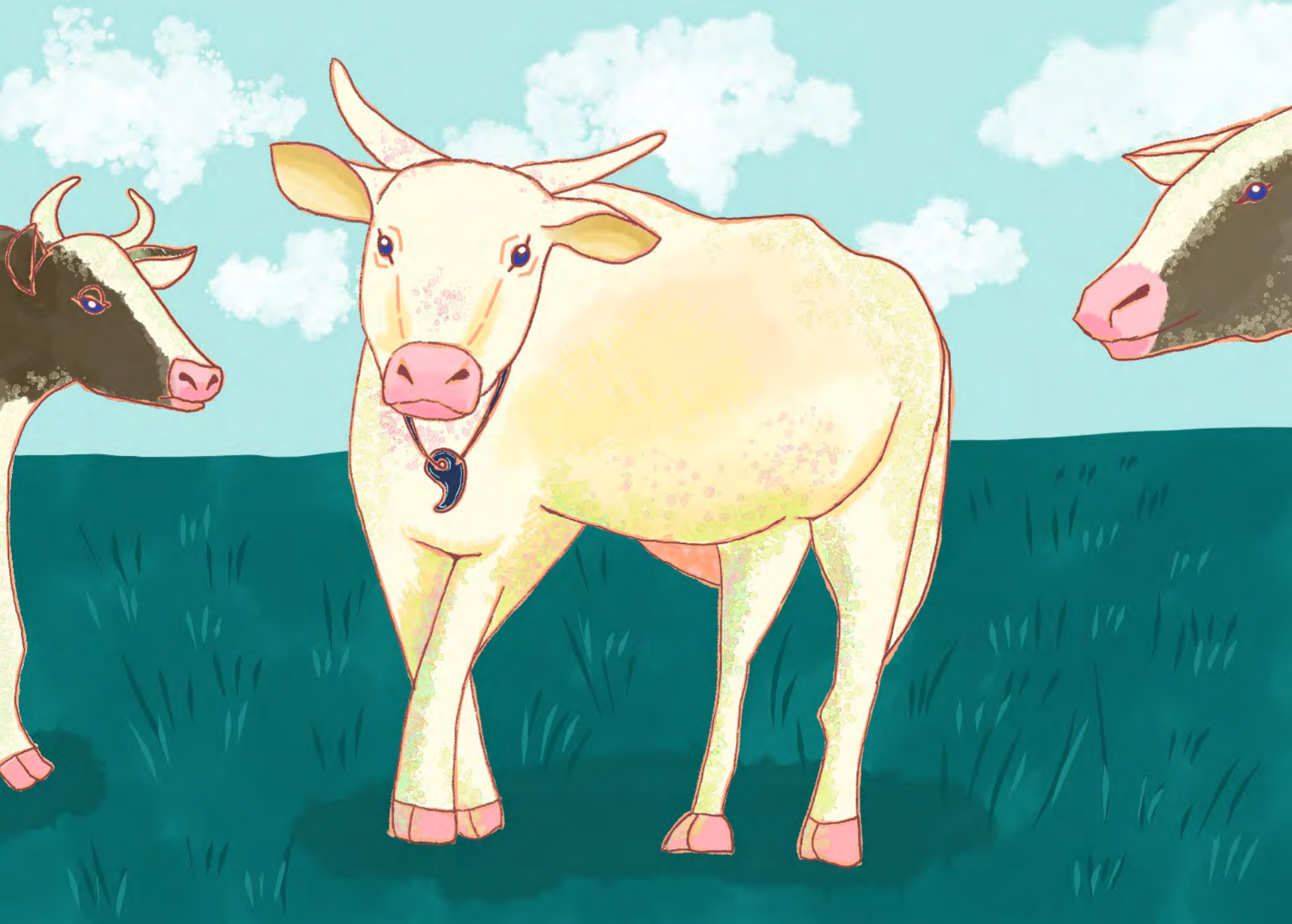


そのひから、  
モーはきぼうにみちあふれていました。

モーはぼくじょうのにんきものになりました。

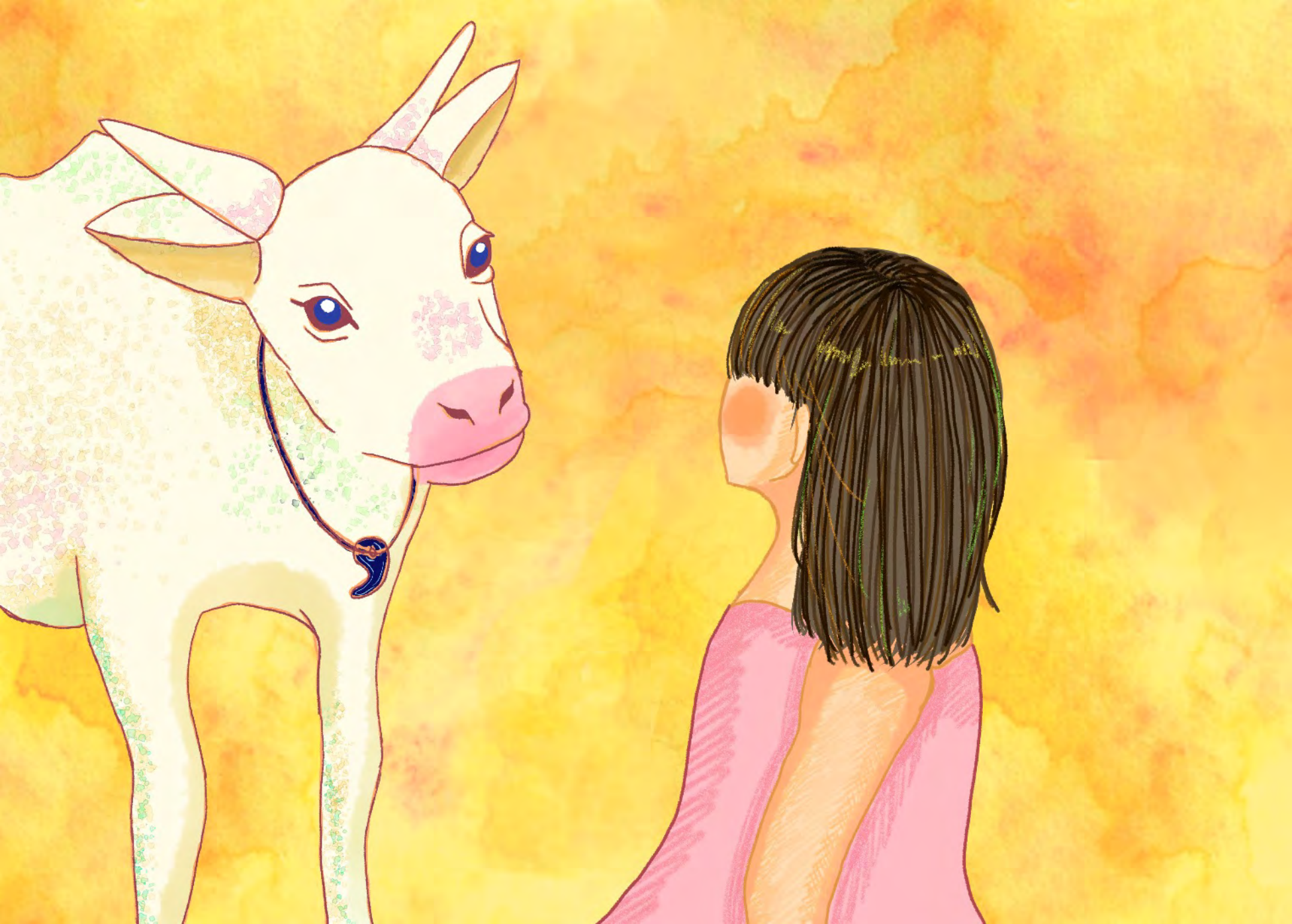
モーはそんなじぶんをすきになりました。





あるひ、  
モーはおんなのこにいました。

『あなたにみせたいものがあるの。』





みんながねむるころモーとおんなのこは のはらがあるきました。

『きれいなほし』

おんなのこは めをキラキラさせました。

それは こうげんのうえでみえる  
ぼうだいなかずのほしたちでした。

モーとおんなのこはほしたちをながめました。

『モー、ありがとう』

おおきなよぞらのしたで  
ぼくじょうとくせいのソフトクリームを食べました。

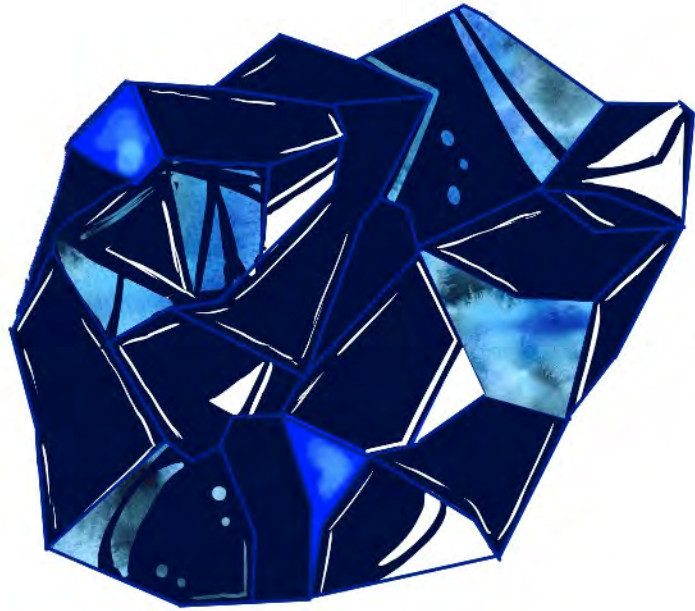


ほしのようなかがやきをもつ こくようせきは、  
えどじだいから ほしくそというなでいられています。

こくようせきがつもった とあるとうげには、  
ほしくそとうげというなでしたまれています。

そんなこくようせきをみて、  
おんなのこにきれいなほしをおかえししようとかんがえたのです。





つぎのひ、

おんなのこはモーにおれいをいいました。

『モー、わたしモーにであえてよかった。』

おんなのこがうれしそうにすると、  
モーのきぶんはるんるん。

『また、あおうね。』

モーとおんなのこはやくそくをしました。

そして、いっとうのうしは  
のどかなぼくじょうにもどっていきました。





